【レジメン名】

化学療法に関する説明書・同意書

私は、@PATIENTNAME 様に下記のとおり説明します。

（西暦）　　　年　　月　　日　説明医師　@USERBELONGSECTION

立会者　医師

立会者　看護師

下記について説明を受け、同意しました。

（西暦）　　　　　　年　　　　月　　　　日

患者氏名（署名）

代諾者氏名（署名） 　　 　　　 続柄（　　　）

（親権者、後見人、その他これに準ずる者）

@@@@KR02,化学療法に関する説明書・同意書,@PATIENTID,@USERID,@PATIENTSELECTEDSECTIONCODE,@DOCDATE2,@PATIENTWARCODE,@PATIENTENTERHOSPITALDATE2

[ ]  患者から同意を得たが、署名ができない

[ ]  患者の同意を得られず、代諾者から同意を得たが、署名ができない

　　　　　　　　　　　記載者名：

**1）病名、病態**

あなたの病名はクリックして病名を入力してくださいです。

**現在の状態は次の通りです。**（図を用いる場合は別紙参照）

ここをクリックしてテキストを入力してください

**2）この治療の目的・必要性・有効性**

あなたの現在の病気の進行状態、合併症などの全身状況から、本薬剤(具体的薬剤名)の投与が最も有効であると判断されます。臨床試験においては本薬剤投与により約　　か月の生存効果が期待されます。

**3）治療の内容及び注意事項（前処置を含む）**

本薬剤の投与は点滴(あるいは経口)により投与します。投与間隔は3-4週ごと(経口の場合は毎日)で行います。化学療法の用量は、体重や身長以外にも、合併症なども考慮して決定します。スケジュールや化学療法の用量は、副作用の発生状況を考慮し、途中で変更になる場合もあります。

化学療法の内容は、疾患に対して無効になった場合や、副作用が強い場合などに、変更や中止になる可能性があります。

副作用を予防するために、吐き気止めやアレルギー予防の薬なども必要に応じて使用します。

**4）治療に伴う併発症（偶発症・合併症）／危険性とその発生率（できるだけ数値で示す）**

抗がん剤は悪性細胞を標的として投与されますが、どうしても正常細胞にも作用するため、一定の副作用が発生します。

1. 骨髄抑制：感染症から身を守る白血球は骨髄で常に作られています。一般に抗がん剤は増殖の盛んな細胞を標的とするため、白血球の低下が起こります。このため免疫力が低下し、感染症の危険が増します。このため、白血球の推移を観察し、感染症の発症を抑えるよう配慮します。さらに骨髄では赤血球、血小板を作っておりそれらが低下することにより貧血、出血傾向といった副作用が想定されます。
2. 消化器症状：多くの抗がん剤は胃腸粘膜に直接作用したり、嘔吐や食欲をコントロールする神経系に作用するので、吐き気、下痢、便秘、食欲低下といった消化器症状の副作用が出ます。こうした症状には吐き気止めや下剤等対症的に対応します。
3. 脱毛：髪の毛も増殖の盛んな細胞からなっているため抗がん剤により脱毛が起こることがあります。必要な方はウィッグの相談に応じます。
4. 皮膚障害：皮膚症状は特に毎日内服する経口薬に多く出る傾向があります。ニキビ様の皮疹や爪周囲の炎症、手足の皮むけ、色素沈着などが起こりえます。あらかじめクリームなど対応しておくことが大切です。
5. アレルギー反応：すべての人ではありませんが薬剤や混合物に対してアレルギー反応を起こす方がいます。薬剤により起こしやすいものもあり、そうした薬剤では初めから抗アレルギー薬などの併用を行い予防します。
6. 末梢神経障害：しびれ、うずき、痛み、知覚障害が起きることがあります。
7. 間質性肺炎：頻度は高くはありませんが肺に炎症を起こす場合があり、重症であると生命にかかわることがあります。
8. その他：発熱、肝機能障害、(黄疸、肝不全)、低血圧、心不全、急性膵炎、皮膚粘膜眼症候群、心タンポナーデといった重篤な副作用が起きることも報告されています。

これら副作用、合併症はあなたの体調や病状により、発現率が変動します。これ以外にも、予測を超えた併発症（偶発症・合併症）が起こる場合があり、適切に対応しながら診療していきます。しかし副作用の出現の仕方は様々であり、重症化すると入院が必要になる場合もあります。そのような場合、最善の治療を行いますが、時には命に関わるような重篤な副作用の場合もあります。

※これ以外にも、予測を超えた併発症（偶発症・合併症）がおこる可能性があります。

**5）併発症（偶発症・合併症）発生時の対応**

日々の診療で、できる限り併発症（偶発症・合併症）が発生しないように工夫して治療をしていきます。

※予測を超えた事態が発生する場合もあります。併発症（偶発症・合併症）が発生した場合には、可能な限り迅速に対応しますが、その際の治療は保険診療となります。

**6）代替可能な治療**

他に選択しうる治療として、このまま現在の治療を継続する、あるいは緩和治療のみを行うといったことが考えられます。病気の進行を止めることは難しいことですが、本治療を行うことにより延命効果が示されています。

**7）治療を行わなかった場合に想定される経過**

化学療法の効果が得られた時に比べると、病気が悪化する可能性があり、末期状態、死期が早まる可能性があります。

**8）患者さんの具体的な希望（美容上の問題、患者特有の価値観など）**

ここをクリックしてテキストを入力してください

**9）治療の同意撤回、セカンドオピニオンについて**

同意書を提出された後でも、撤回は可能です。その場合には下記まで連絡してください。

また、治療について他医療機関の医師に意見を求められる場合（セカンドオピニオン）は、担当医師に申し出ください。担当医師は、他医療機関の医師が治療内容について意見を述べやすいように紹介状や検査データなどを準備して、患者さんにお渡しいたします。

**10) 診療体制**

当院では一人一人の患者さんに対し、複数の医師、看護師等の医療従事者が患者さんや患者さんのご家族と協力して診療に取り組むチーム医療を行なっています。

チームを構成する職員は、複数の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、リハビリ療法士、臨床工学技士などです。多くのスタッフにより「チーム」を形成し、一人一人の患者さんに安全でよりよい医療を提供できるよう、大学病院として努力しています。また、患者さんご自身や患者さんのご家族もチームの一員として、安全でより良い医療を受けていただくために積極的にご参加ください。

**11）連絡方法**

治療について質問がある場合や、緊急で連絡が必要になった場合には、下記まで連絡してください。

担当医師が対応できるまでにお時間を頂く場合があること、折り返し病院より連絡させていただく場合があることをご了承下さい。

**富山大学附属病院　電話076-434-2315**

**連絡先：（**@USERBELONGSECTION選択してください**）　対応可能時間：（**選択してください**）**

**【備考】**